

変えていこう新しい小松へ

◆市政に臨む思い

A かつてない飛躍を遂げる小松の未来のため、好循環を作り出し、市民と共に次世代都市こまつの実現を目指し、勇気をもって新しいまちづくりに挑戦していく。

◆大胆な財政出動で有効な先行投資

◆社会基盤の整備

A 幸八幡線の整備や交通渋滞緩和のため交差点改良工事等、市民生活に密着した整備で都市機能、市民生活の向上を図りたい。

◆スポーツ施設等の充実整備

A 多機能・複合型の施設整備は交流人口の拡大が見込め、まちづくりの大きな推進力となる。

◆安心・安全な学校づくり

A 各学校へヒアリングと現地調査を行い、要望を踏まえ施設や設備を修繕・新設する。

◆新たな子育て・教育支援

Q 小学1年生から中学3年生までの学校給食無償化の完全実施に向けた市長の意気込みは。

A 無償化の取組が「子育てするなら小松」と選んでもらえる効果的なインセンティブとなるため、早期実現に向け全庁挙げて取り組む。

Q 子どもの各種予防接種の無償化に向けて。



給食費無償化の実現を!

A 任意予防接種に利用できる助成券を4月に交付しているが、負担なく利用してもらう方法を検討し、次年度に向け推進していく。

◆出産・子育てに係る費用・ストレスの軽減

A 赤ちゃん訪問事業に加え、悩み相談や情報提供の機会を増やし、子育てに係る費用を支援できないか検討したい。

◆これからの企業誘致

◆空港を活かした企業誘致

A 正運寺産業団地や安宅新地区の土地区画整理事業を進め、物流拠点化や航空産業関連等、新たな産業やものづくり産業を含めた誘致を行う。

◆まちなか企業誘致

A 駅前に整備計画のある北電ビルはオフィス誘致を目指す施設とする。

◆市長の退職手当の特例に関する条例

Q 市長の今任期の退職手当をゼロにする思い及びこれから進める行財政改革についての思い。

A 政策実現のための財源の一部とし、行財政改革への断固たる覚悟を示すものである。公共施設マネジメントによる資産の適正管理と有効活用、組織の見直しと事業の選択と集中、自主財源・将来

税収の確保等の取組を進め「好循環を作り出すまちづくり」につながることを考える。



◆副市長二人体制

Q 地元に通じた市職員OBの越田氏を先の臨時議会で選任したがもう一人、国からの派遣を考えている副市長に期待するところは。

A 変革する地方自治や国と地方が抱える共通課題、進めるプロジェクト等で、官僚として培った知識、経験を活かし、国の制度活用等、強力にバックアップしていただき、国との連携強化や、省庁へ帰任後も市との強固なつながりを存続できる。

◆副市長二人体制の財源手当てについて

A これまでも副市長一人の他に参与を2名配置していた。国から副市長を迎えることは人件費と比較にならないほどの意義、効果がある。現状において人件費が大きく増えることはない。

◆F-35Aの小松基地配備

◆国防への思い

A 近年、一部の周辺国による核兵器の脅威、軍事力の増強等、安全保障環境は一層厳しさを増しており、小松基地の重要性はますます高まっている。

◆基地周辺住民への思い

A 住民は騒音問題や飛行機の墜落、部品落下等の危険や不安に、長期に渡りさらされている。市長として騒音区域にお住まいやお勤めの方の思いを共有しなければならないと感じている。



竹田 良平(ただりょうへい)議員

一括質問

通信に必要なSIMを内蔵したLED電球を高齢者一人世帯に設置する取組等

Q この取組は、通信機能の付いたLED電球を一人暮らしの高齢者宅の玄関やトイレ等に設置し、一定時間利用しなかったり、逆に利用したままとなった時に、LED電球からの通知が、緊急連絡先の家族等に届くようにするもの。電球設置に補助金を交付する等、普及を進めようか。

A 高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らし続けていくためには、新たな支援体制の確立が必要。その方策としてデジタル技術を利用した見守りシステムの導入は不可欠なツールであり、費用対効果を見極め適切に対応していきたい。

Q 下水道未普及エリアへの延伸について、今後の未普及解消の予定は。接続率向上への取組は。

A 現在の下水道管渠整備は、荒屋処理分区(高堂町)等で進めており、今後、第一分区(打越町)等について整備を進める予定。接続率向上の取組として、戸別訪問等を行っている。整備後の早期接続につ

ては、市民皆様の理解も重要。市の計画に基づき、町内会や地域の皆様の接続意向の高い地域から整備を進めていきたい。

◆市民の移動手段の確保

Q コロナワクチン接種について、高齢者のみで暮らし世帯のうち、家族等の送迎支援が受けられない方は、接種会場までのタクシー利用の助成が行われている。日頃から移動手段に困っている方には、自宅からスーパー等の目的地まで直接輸送するようなデマンド交通が有効である。新地域公共交通の構築、今後の方針は。また、能美市や加賀市との連携は。

A 最適な新地域公共交通の構築を図るため、路線バスの車両にセンサー等を設置、詳細なデータを取得し、現状の課題抽出・分析を行う。利用者にとってわかりやすく、便利な仕組みの検討も必要であり、地域ごとの有効な移動手段を継ぎ目なくつなぐ「小松版Maas」の構築に向け、近隣市とも協議しながら進めていきたい。



岡山 晃宏(おかやまあきひろ)議員

一括質問

観光政策と環境政策について

◆コロナ後・北陸新幹線小松開業を見据えた観光について

Q 観光政策・ビジョンについて。

A 小松には目的地になり得るおいしい飲食店がたくさんある。粟津温泉にしても、旅館の中で味わう食や楽しさ等、五感による価値「身体的価値」を高めていくことができる。また、人との交流は「精神的価値」になる。現在、ものづくり産業等へのオープンファクトリー事業を進めている。スポーツはまさに交流である。スポーツ施設のほか、多機能複合型のコンベンション施設として活用できる施設整備を今後検討していく。コロナ禍で観光ニーズは一変している。専門家に意見を求め、新しい観光ビジョンを作成していきたい。

Q 粟津温泉の利便性について。

A これまで総湯、粟津演舞場等の改修を行い、令和元年には交流広場が完成する等、粟津温泉の活性化を目指した整備を行ってきた。駐車場不足の課題はあるが、これまで整備した既存施設を、旅館と住民が協力し合いながら有効活用してほしい。

◆第3次こまつ環境プランについて

Q 2050年二酸化炭素排出量ゼロに取り組む「ゼロカーボンシティ」を表明しないのか。

A ゼロカーボンシティ宣言の重要性、必要性は認識しているが、タイミングについては県の動向等を踏まえ、総合的に判断していく。

Q 再生可能エネルギーの導入、公用車のEV車に対する取組は。

A 再生可能エネルギーの導入支援として、バイオマス設備設置補助を実施している。また、一般公用車66台中、動力源に電気を使う電動車は9台ある。2050年カーボンニュートラルの達成に向け、国の補助制度拡充を注視したい。

◆食品ロス削減計画について

Q 未利用食品の有効利用は。

A 家庭で不要になっている賞味期限が1カ月以上ある常温保存できる食品を集め、フードドライブ等の団体を通じて必要としている団体等へ配布している。今後とも家庭で不要になっている食品を集める団体、事業所や町内会等の受入窓口の拡充を図っていく。



東 浩一（ひがしこういち）議員

一括質問

里山地区活性化の拠点について

◆アーティストカレッジこまつ 観音下について

開業予定に遅れが生じている状況について。

6月下旬に連合町内会を中心とした施設見学会を予定している。早期オープンに向け、指定管理者と共に協議を重ね、地域一丸となって、新たな魅力ある里山拠点施設として、運営を行っていききたい。

◆旧金野小学校跡地活用について

（株）出光・タジマEVの誘致について。

現在、田嶋社長に日程調整をしていただいている。市のストックマネジメントの観点や民間活用を視野に入れて地元と協議しながら、今後の在り方について検討を進めたい。

◆クマ・イノシシへの対応

ジビエアトリエ加賀の國について。

9月頃に販売開始を予定。北陸初となる国産ジビエ認証の取得を進めている。イノシシ肉はふるさと納税の返礼品として人気があるため、新たな特産品としての地位を確保していきたい。

AIクマ検知カメラについて。

今回設置予定のAIカメラは、顔認証技術によりクマのみを識別して自動通知するもので、松東みどり学園等に8基実証設置して検証を進めている。良好な結果が得られれば、本格導入を検討していく。

◆農林業について

スマート化とドローンについて。

10月に小松市産学官UAV（ドローン）推進連絡会が設立見込み。産学官連携による技術開発を進め、スマート農林業を幅広く普及させるためのシステム構築を図る。地産地消・食育推進費について。

今年度は10月から12月迄の3カ月間、「蛭米」と「えちやけな」を提供する。将来的にはお米だけでなく、学校給食に四季折々の旬野菜の提供も検討したい。

今年度は10月から12月迄の3カ月間、「蛭米」と「えちやけな」を提供する。将来的にはお米だけでなく、学校給食に四季折々の旬野菜の提供も検討したい。

◆新地域公共交通体系の構築「小松版Maas」について

市全域において、それぞれの地域の特徴を踏まえながら、乗合ワゴンや新たなモビリティの導入、一定区域内での定額料金制度等多様な方法の中から最適な交通手段を選択していきたい。



吉田 寛治（よしだかんじ）議員

一括質問

日本一のまちづくりについて

市長は市民の声を聴いて、図書館を造っていききたいと所信表明で強く言われました。市に住むあらゆる人の図書館への希望や夢等をどのように集約するのか。新幹線駅の駅舎ライブラリーの見通しは。

意見やニーズの集約については、図書館利用者をはじめ広く市民を対象にホームページ等を活用したアンケート調査の実施や若い世代を中心にスマートフォンを利用した意見聴取を行い、ニーズの把握に努める。駅舎ライブラリー機能は見直し予定でビジネスラウンジや観光情報機能を充実したい。

小松市の定住促進奨励金について補助金制度の全域への支援、過疎化対策としての里山地域へのこ入れ、ホームページのPR方法については。

定住促進は行政にとり最も重要な施策のひとつで、補助金制度だけでなく、子育て、教育・産業・福祉・観光等全ての政策が住む地域選びに結び付くため、市の魅力を総合的に高めていきたい。県と連携して移住フェア等に参加し、市の魅力や支援制度をPRしている。定住支援策を全国的な情報誌に掲載したところ大きな反響があり、このようなPR方法を増やしていきたい。市のホームページについては分かりやすくすべきところは改良していく。

2年前、市がSDGs未来都市に選ばれ、10年後に日本一を目指すという目標があったが、引き続き日本一を目指すつもりはあるか。SDGsの運動を支援する施策について、あと8年で日本一になるためのビジョンは。企業や子供からお年寄りに対するSDGsの啓蒙活動をどのように考えていくか。

事業所、団体がSDGsの取組を宣言し、実践するSDGs宣言は令和2年4月から始め、現在78事業所に拡大。環境、経済、社会の3分野における好循環を作り出す政策を立案、実行して持続性の高い次世代都市を目指す。商工会議所や青年会議所等と連携し、宣言500団体へ拡大を目指す。

事業所、団体がSDGsの取組を宣言し、実践するSDGs宣言は令和2年4月から始め、現在78事業所に拡大。環境、経済、社会の3分野における好循環を作り出す政策を立案、実行して持続性の高い次世代都市を目指す。商工会議所や青年会議所等と連携し、宣言500団体へ拡大を目指す。



吉村 範明（よしむらのりあき）議員

一括質問

飛躍に向けた

4つの政策について

◆第1の企業誘致について

Q 本市には空港、高速道のインターがあり、新幹線の駅も出来る。好条件の本市にプロ野球の球団誘致を構想に持ち、付随する企業を視野に入れ誘致を進めるべきだ。

A 空港を生かした物流、航空機産業の誘致や機械産業をはじめ、地場産業がより稼げる産業支援を行い様々な業種がバランスよく配置された産業都市を目指したい。プロスポーツチームの誘致に向けアンテナを高く張り取り組みたい。

◆第2の子どもたちのための政策について

Q 恒久的かつ抜本的な施策を講じないと地域コミュニティが存続できない。子育て世帯と新婚世帯を対象とした地域優良賃貸住宅を那谷校下に計画すべきだ。

A 子育て世代等の地域の多様な方が自らの地域の将来について話し合う場を設けビジョン作成の支援をしたい。制度が固まれば那谷地区においても共に進めたい。

◆第3の安心して暮らし続けられるまちに向けた政策について

Q 訪問理美容サービスの利用回数を年6回にすべきだ。

A サービス内容の見直しに当たっては利用実態やニーズ等を十分把握する必要がある。在宅で介護を受ける高齢者や家族等への支援体制は課題やニーズを勘案し、総合的な観点から今後改善していきたい。

◆第4の暮らす人、訪れる人が幸せを実感できるまちに向けた政策について

Q 加賀建仁寺流の名工、山上善右衛門が国宝瑞龍寺、那谷寺、妙成寺や気多大社、小松天満宮等を手掛けたが、石川県に国宝がない。那谷寺を国宝にすべく行政を挙げて取り組むべきだ。

A 那谷寺には本堂や三重塔等、国指定の重要文化財建造物が5棟、国の名勝庭園が2件所在し、文化財の宝庫である。国宝指定に向けては、その価値の高さを学術的に明らかにする必要があり、総合的な価値が国内でも卓越した存在となるよう取り組むたい。



出戸 清克（でときよかつ）議員

一括質問

郷谷川の水質改善について

Q 尾小屋鉱山の廃水処理は倉谷地区と赤目地区の2か所で実施している。両処理場とも重金属イオンを含む強酸性の廃水のため、倉谷処理場では、中和処理剤に消石灰、赤目地区では苛性ソーダが使われている。毎年実施される県の水質調査では国の環境基準を下回っているが、三ヶ用水から上流は全く魚が確認できない。マインロードから排出される狭戸廃水口（土管水）から強い酸性、重金属濃度の高い廃水が垂れ流しとなっているが対策は。

よると尾小屋町の土管水の排出により魚が棲みにくい環境であるとのことである。市としても鉱山や河川等の状況について知見を有する地元の方にもヒアリングを行っていきたい。

◆加賀立国1200年祭に向け

Q 石部神社の遊歩道の整備とバーチャルリアリティやAR（拡張現実等）、進化の映像技術を駆使して当時の建物や生活、風景が見られ、また遊歩道のポイント毎にスマホでQRコードを確認しながら歴史や当時の暮らしが理解できる整備を期待する。1200年祭のイベントとして能美市と古墳遺跡ライオンを結んで古墳や史跡の探検ツアーを期待する。

A 白山眺望を意識した国府のシンボルとなるようなミニ公園の整備等、整備候補地を調査、検討する。2023年、県での国民文化祭に合わせ、国府の魅力発信に向けた関連事業を展開し、来場された方に国府地区の姿を見ていただきたい。

Q 2004年から、魚よみがえれ郷谷川再生プロジェクト活動が開始され、魚が生息する条件の調査研究が行われている。今後も継続した支援体制を問う。

A こまつ環境パートナーシップの一員として魚が郷谷川に棲める河川になるよう調査、研究をし、同プロジェクトがまとめた報告書に